

科目名	宗教と人間（親鸞と現代） A					単位	2.0
担当教員	安藤 弥						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	1	授業番号	3214

●授業のテーマ

現代社会を生きていく私たちの諸問題について考えるために、中世社会を生きた親鸞の歴史像に学ぶ。

●到達目標

浄土真宗（親鸞）の教えに基づく同朋大学で学ぶ意味を理解する。大学における学び（学問・研究）を始める出発点を確認し、新しい知識を習得しつつ、積極的に取り組む姿勢を身に付ける。

●学習内容(授業概要)

「宗教と人間」というテーマが何故、必要なのでしょうか。まずそこから一緒に考えていきたいと思いますが、「宗教」なるものを「人間」（自分）の外に対象化して、それとの付き合い方を教えるものではありません。「宗教」は本質的にすべての「人間」（自分）の内にあります。そういった問題意識を根底に持ちつつ、講義の中心を「歴史のなかの親鸞」とします。「親鸞」の生涯と思想について「歴史」の観点から講義しつつ、「現代」に生きる私たちが「歴史」の上に立っていること、そして「歴史」から学ぶべきことなどについて、考えてみたいと思います。

なお、導入・基礎科目として、大学における学び方についても適時、伝えていきます。

●学習内容(授業計画)

1. 導入（ガイダンス）
2. 宗教と人間—現代社会と宗教
3. 親鸞が生きた中世社会と宗教
4. 親鸞の生涯①誕生・得度
5. 親鸞の生涯②比叡山修学・六角堂夢告
6. 親鸞の生涯③吉水時代（法然と親鸞）
7. 親鸞の生涯④専修念仏弾圧・流罪
8. 中間総括（小テスト）
9. 親鸞の生涯⑤越後時代・付論（親鸞の妻）
10. 親鸞の生涯⑥関東時代
11. 親鸞の生涯⑦帰洛・門弟との交流
12. 親鸞の生涯⑧善鸞義絶
13. 親鸞の生涯⑨晩年・最期
14. 親鸞と現代
15. 総括（まとめ・理解度の確認）

●準備学習・事後学習の内容

準備学習では宗教や親鸞に関わる情報に関心を持ち予備知識を得てください。事後学習では講義内容について配布プリントなどを読み直して復習してください。

●成績評価方法・基準

平常点（受講姿勢など）60%、試験（筆記）40%

●テキスト（必携）

（なし—板書が基本で資料プリントも配布します）

●参考文献／その他

『宗祖親鸞聖人』（東本願寺、1978年）

『親鸞聖人行実』（東本願寺、2008年）

『まんが宗祖親鸞聖人』第1・2・3巻（「南御堂」新聞編集部、2008～10年）

『親鸞 その生涯と教え』（東本願寺、2010年）

（その他、適時、紹介します）

●履修上の注意

板書と配布プリントの多い講義です。当たり前のことですが、講義中に私語・携帯電話等は厳禁です。